令和８年度　地域連携推進会議　議事録

日　時	令和　8 年　11 月　6 日　金曜日 10：30　～　11：50	作成者	溝上友喜
場　所	社会福祉法人　蓮花の会　理事長室		
委員構成者	議　　長　溝上友喜		
	参加者　伊東哲也、松下博文、川﨑一司、松尾ひとみ、Ｉ氏 （事務局　溝上友喜、今福和絵）		
議　　題	① 利用者様子と日常生活について ② 感染症流行時・災害時の対策について ③ 虐待・事故・苦情の報告 ④ 質疑応答 ⑤ 施設見学（新拓・福田）		
メモ	**利用者の状況と日常生活・余暇** - 定員は 12 名。障害支援区分は区分 1 が 0 名、区分 2 が 1 名、区分 3 が 1 名、区分 5 が 6 名、区分 6 が 4 名で、重度の利用者が多い。 - 生活介護利用者は通所先で入浴し、就労継続支援利用者は帰宅後にホームで入浴する。通院同行、服薬管理、日々の体調観察も実施。 - 日曜はホーム滞在と帰宅に分かれ、お盆や正月には外出や買い物などの余暇活動、誕生日会や季節行事も実施。 - 利用者から本屋、ボウリング、買い物などの希望があり。夏から延期されていた 12 月の細川たかしさん・長山洋子さんの公演（チケット確保済）を見に行く予定。 **食事の提供体制と利用者間の困りごと** - 朝夕の食事はホームの調理担当者による手作りで、年齢・食べやすさに配慮した形態や季節の食材を取り入れている。平日は通所先で給食。日曜・正月等はホームで 3 食提供する。 - 利用者間の困りごととして、相性や声、足音による不眠の訴えがある。トラブル時は職員が間に入る、別室で過ごしてもらうなどの対応を行い、けが防止の環境配慮もしている。 **感染症・災害への備え（浸水・地震対策、備蓄、BCP）** - 浸水・地震対策：福田のグループホーム周辺はハザードマップで浸水深 0.5～1m の場所があり、水路の氾濫を考慮して床を通常より 50～80cm 高く建築した（現在まで浸水経験なし）。過去に震度 4 の地震で点検を実施したが、大きな被害は確認されていない。 - 避難訓練・設備点検：避難経路・場所を掲示し、消防設備点検と避難訓練（昼間・夜間を想定し年 2 回）を実施。 - 備蓄・発電機：水・食料を備蓄。出力約 1500W の発電機が 1 台あり。 - BCP 策定し研修・訓練を年 1 回実施（今年は感染者・非感染者の区分け訓		

	練や手洗い確認を実施)。 **虐待防止と身体拘束の回避** - 虐待防止委員会（年 2 回）や職員アンケート（支援時の焦り・ストレス確認)、職員向け権利擁護研修（年 1 回）を実施。 - 困難時は単独判断を避け、複数職員で安全確保と落ち着く時間を設ける。 **服薬事故、苦情、情報共有の課題** - 服薬時間のずれ、飲み忘れ、口腔内残薬が報告されており、再発防止策として 2 人確認、服薬後の口腔内確認、食後のまとめ服薬を徹底する。 - 苦情・連絡不備として、家族からの連絡が共有されず通所先を誤った件、受領した土産の情報が共有されずお礼を伝えられなかった件が報告された。 **施設見学** グループホームほっとハウス新拓・福田の施設見学を実施した。 **質疑応答** Q1　多雨の際に浸水はあるか。 水害の経験はない。堤防に大型の排水ポンプがあるため事業所周囲の排水は良好。 Q2　熊本地震の際に被害はなかったか 事業所も震度 4 程度の揺れを感じたが利用者、建物に被害はなかった。 Q3　食事は月ごとに決まっているのか。 １か月の献立が決まっている。食材の買い物は職員が行っている。 以上